

## 【先週の説教要旨】

## 「主の神殿と主の言葉」

エレミヤ 7:1-11

マタイ 7:21-25

「主の神殿、主の神殿、主の神殿」という、空しい言葉に依り頼んではならない（エレミヤ 7:4）。預言者エレミヤはエルサレム神殿の門の入り口に立って、礼拝のため神殿に入って行く人々に向かって語りました。天下に誇る壮麗なソロモンの神殿での礼拝は空しいというのです。「空しい」はカラッポ、中身がないことです。主（ヤハウエ）の神殿（家）に神はいない、「主の神殿」で礼拝すれば救われるというのは偽り＝うそだということです。

そもそも『神殿』＝主（ヤハウエ）の家、或いは主の宮殿という考え方は、ヤハウエ信仰にはなじまないものでした。イスラエルの神＝主（ヤハウエ）は出エジプト以来、昼は「雲の柱、夜は火の柱」として彼らとともに移動する神でした。さらに、彼らが40年にわたって荒れ野をさまよった時も、彼らの天幕＝テントと共に移動する「主の契約＝主の言葉」でした。イスラエルの人々と共に歩む神でした。神殿はもともと定置農耕民の豊穡と慈雨の神などを祀った神の宮でした。

イスラエルの「神は果たして人間と共に地上に住まわれるでしょうか」（列王記上 8:27）と、ソロモンが神殿奉獻時に祈ったように、「天も、天の天も、あなたをお入れすることはできません。まして私が建てたこの神殿などなおさらです」。ところが、その神殿が奉獻のはじめから周辺農耕民や商人たちの神殿信仰の真似をしていました。奉獻式でソロモンは牛二万二千頭、羊十二万匹、他を犠牲＝いけにえとして奉げて会食をしました。豊穡の神の神殿は大ききで力を誇示しました。大きいことはいいことだという哲学です。

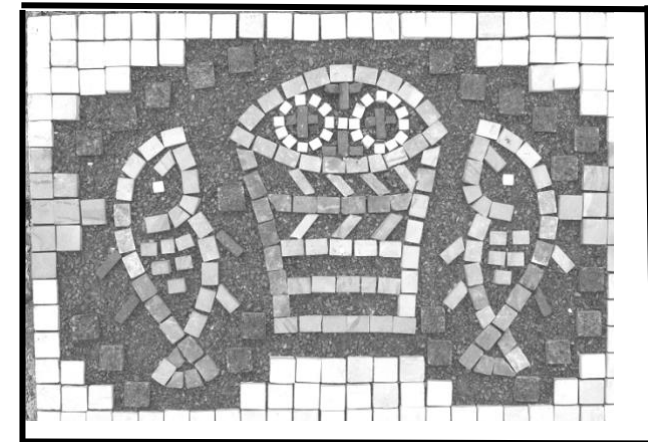
こうして神殿は権力と富の象徴となり、神殿の神聖化、偶像化が進みました。もはや神殿は、出エジプトの神とは無縁の「聖なる守り神の偶像」となりました。王と宗教者による神殿の私有化です。神殿は利益を生み出す「強盗の巣窟」＝「盗賊たちの巣窟」になりました（エレミヤ 7:11）。もはや神殿に神はいません。神は「寄留者、孤児、寡婦を虐げず、罪なき人の血を流さず、他の神々に従って自ら災いを招かない」者たちと共におられます。

イエスは、過越祭のために来る拝者を相手に、神殿内で商売をしていた人々に向かって「お前たちはわたしの家を強盗の巣にしている」と激しく怒り、彼らを追い散らしました。また、『主よ、主よ』と言う者が皆、天の国に入るわけではない。天におられる私の父の御心を行う者が入るのである」と。御心とは、「イエスを語り、イエスの名によって癒し、人々が驚くような働きをする」ことではありません。主の言葉であるイエスに従い、「あなたが見下しているその人」と共に生きることでしょう。

## 日本キリスト教団浦河教会

# 週報

No.16 2021年7月18日



教会創立 1956年

〒057-0022

北海道浦河郡浦河町昌平町東通 32

電話 (FAX) 0146-22-2904

牧師 五味 一

電話 (FAX) 0146-26-3043

2021年7月18日 (No16)

### 主日礼拝

司会:佐々木 実 奏楽:松村宣恵

前奏 奏楽者  
讃美歌 85 (二回) 一同  
祈り 司会者

聖書 創世記21章9~21節  
(旧約聖書29頁)  
マタイ福音書8章5~13日節  
(新約聖書13頁)

司会者  
讃美歌 205 一同  
分かち合い礼拝 聖書の言葉と一週間

みんな  
讃美歌 513 一同  
献金と感謝の祈り 一同  
主の祈り 62 一同  
頌栄 キリストの平和が (1・5) 一同  
祝福 一同  
報告 一同

新しく来られた方・久しぶりの方の紹介

### 【本日の集会】

◇主日礼拝 午後2時 場所 カフェぶらぶら  
◇お茶の会 コロナウイルス感染防止のため休会

### 【今週の集会】

◇一緒に聖書を読み祈る会 カフェ・ぶらぶら  
・7月21日(水) 午後7時  
ゼカリヤ書13章1~5節  
(旧約聖書1493頁)  
讃美歌 431、533

### 【次週の予定】

◇主日礼拝  
・7月25日(日) 午後2時 カフェ・ぶらぶら  
・聖書 ホセア書6章1~6節  
(旧約聖書1409頁)  
マタイ福音書9章9~13節  
(新約聖書15頁)  
・説教 「わたしが喜ぶのは慈しみ」  
・讃美歌 204、424

### 【来週の礼拝司会者を決めましょう】

- ① 和田智子 ② 広瀬秀幸 ③ 佐々木実 ④ 吉田公子  
⑤ 伊藤知之 ⑥ 山根耕平 ⑦ 岸澤恵美 ⑧ 高崎晋 ⑨ 山本潔 ⑩ 早坂潔 ⑪ 荻野仁

### 【集会統計】

集会名	参加者	献金
主日礼拝 (7月11日)	28名 (子1名)	10,748円
祈禱会 (7月14日)	10名	

### ♪ 本日の讃美歌 ♪

♪ 讃美歌205 「今日は光が」。作詞はイギリス国教会の主教ジョン・エラートン(1826-93)。この讃美歌は、「主日の意義とその喜び」を歌っているもので、現在でも世界各地で歌われています。作曲者は不明。

♪ 讃美歌513 「主は命を」。作詞はイギリス人牧師の娘フランシス・R・ハヴァガ(1836-79)。7歳の時に書いた詩が教会誌に掲載されたほど才能に恵まれました。病弱でしたが、父親の転勤にともないイギリス各地を転々としながらも、多くの宗教詩を残し「清潔の詩人」と呼ばれているそうです。512『主よ、献げます』も彼女の作品。二つとも、日本のキリスト者に親しまれてきました。作曲はアメリカの大衆伝道の歌手フィリップ・ブリス(1838-76)。美しい声の持ち主で伝道集会で歌うようになり、やがて作詞、作曲を手掛けるようになりました。列車事故で38歳の生涯を終えました」

### 頌栄 キリストの平和が

- 1. キリストのへいわが わたしたちのころの  
すみずみにまで ゆきわたりますように  
5. キリストのゆるしが わたしたちのころの  
すみずみにまで ゆきわたりますように